授業者も参加者も創る!!高まる!!広げる!!

西部の国語の未来へバトンをつなぐ

令和４年 11 月発行

西部教育事務所

今回は黒潮町立大方中学校で行われた、９月 27 日（火）教材研究会、10 月 28 日（金）の授業研究会の様子を紹介します。

西部管内の講座関係のＨＰ

【単元名】「盆土産」を読んで、登場人物の言動の意味をまとめよう（光村図書「国語２」）【授業者】福岡　征則教諭（黒潮町立大方中学校）

教材研究会

本単元のポイント

大方中の挑戦！

- 生徒が主体的に読み進めるための「問い」の工夫
- ＩＣＴを活用して、個別最適な学びと協働的な学びの実現

今回、大方中学校では２年生【C 読むことア、イ】を重点指導事項として、２つのことを意識して単元を構想しました。

１点目は、生徒が主体的に読み進めることができるようになることです。そのためには「問い」が生徒にとって自分事になることが重要であるため、生徒の初読の感想や疑問から、「なぜ、少年は別れ際に『えんびフライ』と言ってしまったのか」という問いを考えました。

２点目は、ＩＣＴを活用して１時間ごとに読み深めている自分を自覚できるようにすることです。教科書 P260（光村図書「国語２」）「文学的文章を読むために」のポイントの中から、課題解決できそうなポイントを自分で決めて読み、自分の考えをまとめ、他者と意見を交流したことを記録に残す工夫を行います。

教材研究会では、十文字学園女子大学の冨山哲也先生から「国語科の授業づくりの 10 の視点」についてリモートで講話をいただき、その中の①②⑥⑨の４つの視点に沿ってより生徒に資質・能力が身に付くための単元になるようにグループ協議を行いました。

国語科の授業づくり　10 の視点

①資質・能力…この教材でどんな力を付けるのかは、学習指導要領の指導事項に端的に示されている。その「質」を意識して指導し、「おおむね満足できる」状況（B）の例を想定して評価する。

②言語活動…魅力的な言語活動は、生徒の主体的な学びのエンジンとなるもの。考えの広がりや深まりにつながる、多様なアウトプットが想定できるものを設定することが望ましい。

③語彙指導…拡大、充実をどう位置付けるか。学校全体での取組も期待される。

④情報の扱い方に関する事項…主として説明的文章。〔知識及び技能〕としての習得と、領域の学習における活用が求められる。

⑤読書指導・学校図書館の活用…発達段階に応じた読書指導の開発や、「話すこと・聞くこと」と読書、「書くこと」と読書という授業の考え方も取り入れてみてはどうか。

⑥主体的な読み…１・２年生は目的に応じた読み、３年生は批判的な読みがポイント。

⑦思考の可視化…思考を促し変化（広がり、深まり）を捉える方法〈文字の色分け、付箋の使い分け、シンキングツール等〉の工夫。

⑧主体的に学習に取り組む態度…何を指導し評価するのか。生徒自身が自らの学習の調整ができるようにすること。

⑨ICT の活用…「使ってみる」から「より積極的に使用する」へ。

⑩言語能力の向上…他教科との関連を図りながら進める。

今回は①②⑥⑨の視点を中心に単元の見直しを行いました。

（協議の視点）

生徒が見方・考え方を働かせながら解決に向かう単元構想になっているか。

（グループ協議での意見）

教科書 P260（光村図書「国語２」）の視点を示しただけで生徒は本当に課題解決に向けて読み進めることができるのか。読むことを苦手とする生徒への手立てはどうするのか。

（冨山先生からの助言・提案）

① 単元末に生徒がどのようなことが書ければ、読む能力としての「質」を身に付けたことになるのかを考えることが大切。

② １時間目には「文章の大体を正しく捉える」ことを丁寧に指導しておかなければ、「精査・解釈」以降の過程の中でつまずくことが懸念される。教師が細かく問いを投げかけたり、ワークシートを活用するなどして「構造と内容」をしっかり把握させることが必要。

③「文学的文章を読むために」の視点は、もっと焦点化した方がよいのではないか。

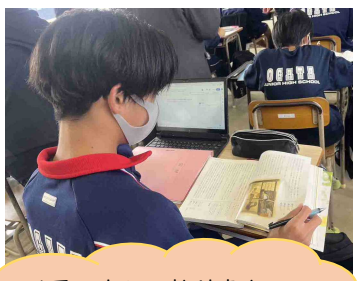
講話では、冨山先生から国語科の授業づくりの「10 の視点」（左図）について、具体例を交えながら丁寧にご指導いただきました。学校内だけで発揮される「学力」ではなく、生涯にわたって使える「資質・能力」を授業の中で身に付けさせなければならないという言葉が印象的でした。

授業研究会

前回の教材研究会を受けて、改善したポイント

①目指す生徒の姿をより具体的にイメージ：どのような叙述に気付くことができればよいのかを教師が明確にする。
②見方・考え方の焦点化：８つの視点から、重点指導事項に関わる２点については必ず触れることを確認する。
③ICT の効果的な活用：自分の意見をまとめるだけでなく、コメント機能を使うことで、多様な助言をもらって考えを広げたり深めたりする。

コメント機能を使って、気になる友達の投稿へコメント！



必要に応じて教科書を読んだり考えをまとめたりしています。

自己の課題解決に向かって何度も教科書を読み返したり、Google ドキュメントで自分の考えをまとめたりと、まさに「個別最適な学び」を実践された授業でした。

指導と評価の一体化

目指す生徒の具体的な姿 ⇔ 生徒の記述（Google ドキュメント・思考ツール）

「おおむね満足できる」B の生徒の記述例を事前に教師が作成して、その例と実際の生徒の記述を比較することで、生徒に何が足りないのか、どこが十分ではないのかに気付くとともに、今後どのような手立てが必要なのか、教師の指導が明確になります。

このように、生徒の記述を基に協議を行った結果

（グループ協議で出た意見）
- 本時で働かせたい見方・考え方が明確であったので、読む視点を意識して読むことができていた。
- 叙述を基によく読めていたが、生徒の記述は本文の「引用」に留まっていたのではないか。
- 複数の場面を結び付けながら読むことはできていないのでは？

↓

教師の意図的な発問や働きかけが必要

今回大方中学校では、生徒の感想から「問い」を引き出したことで、「問い」が自分事になり、主体的に読み進めることができました。また「見方・考え方」を焦点化したことにより、課題解決に向かうためのポイントが明確になり、視点に沿って何度も教科書を読み直し、叙述に即して自分の考えを形成し意見を共有するなど、主体的に学習に向かう姿が見られました。

他者と意見を交流するする場面では、言葉の意味を正確に知っておく必要があることから、自らタブレットを活用して意味を調べて説明したり、これまでに学習した「引用」について友達にアドバイスをしたりするなど、「知識及び技能」との関連を図りながら学習を進めていくことができていました。

参加者の声

○教師主導の授業ではなく、生徒が主体的に取り組む授業の例を見ることができた。
○文学的文章を読む視点を生徒にもたせておくと、その視点を使って様々な根拠を探してくると分かったので実践したい。
○思考を深めるためには、目的をはっきりさせ、焦点化していくことが大事だと再認識した。